

お わ り に

理事 我孫子研究所長 加藤 正進



20世紀は「開発と成長の世紀」と言われる。特に第二次大戦以降の産業の発展、人口爆発、化石燃料を中心とするエネルギー消費の急激な増大などに伴い、地球規模の環境問題や資源・食料問題などが顕在化しつつあり、地球の有限性を否応なしに実感せざるを得ない状況となってきた。このため21世紀においては、地球の有限性を認識し、地球環境と調和した発展を目指すことがますます重要となり、循環型社会への転換が求められる時代となる。

このような観点から、温室効果ガスの排出など環境負荷が少なく、再処理によりウラン資源を有効に活用できる原子力発電は、循環型社会における極めて有効なエネルギー供給システムの一つとして期待できる。

本レビューでは、原子力発電の着実な推進を図るうえで鍵となる、放射性廃棄物の処理・処分技術など原子燃料サイクルバックエンド技術に関して、当所の最近の研究成果を紹介させていただいた。バックエンド技術の開発には、サイエンス・テクノロジー・エンジニアリングに関する様々な知見が必要であり、この成果は、当所の研究力の結集とともに各方面のご協力、ご指導により得られたものである。関係各位に深く感謝申し上げます。

わが国のバックエンド対策は、原子力発電環境整備機構の設立により新しい展開を迎えつつあり、当研究所もさらに積極的に技術開発に取り組む所存である。今後とも関係各位のご指導、ご鞭撻をお願いする次第である。